



# 特集 子どもたちにシニアは何ができるだろう

## ～ 孫世代に未来を託すために～



### 若い人や孫世代と付き合っていますか？

高齢になって同世代の仲間と趣味の会やウォーキングを楽しんでいる人は多くいますが、若い人や孫世代と一緒に行動する機会はあるでしょうか？ 世代間ギャップを感じて「話がかみ合わない」と思い込んでいると、ますます若い人から敬遠されてしまいます。時代についていくには、新しい情報を若い人からもらうことも大切です。

一人暮らしや夫婦二人暮らしが多い現代では、積極的に自分から子どもや若い人の中に入っていく努力が必要です。両親が働いている子どもたちには、シニアが支援できることがいろいろありそうです。今回は子どもや若い人にシニアが何ができるかを考えます。

### 孫と登山を始めたジージ

我が家の孫は今年から高校生ですが、1年以上前から主人と一緒に登山するようになりました。メタボ気味の息子を鍛えることも視野に入れて3人で近くの山に登っています。3000m級の山に登ったと豪語している主人ですが、身の軽い孫がすいすいと登って行くのにはついていけなかったようです。現在74歳のジージと47歳の息子と15歳の高校生ですが、とても楽しい一日になっているようです。共通の山の情報で話が盛り上がり、世代を超えての付き合いができています。

### 核家族に必要な子どもの居場所

我々の子ども時代は兄弟も多く、近所には遊ぶ友達が学年を越えてたくさんいましたが、最近はゲームや塾通いなどで公園で遊んでいる姿をあまり見かけなくなりました。両親が働いている家庭では部屋の中で、何をして親の帰りを待っているのでしょうか？

放課後の子どもの居場所が地域でもいろいろあり、児童館や学童クラブなどでも地域の学生やボランティアの協力も得て楽しいプログラムが組まれています。帰りの遅い保護者からは時間を延長して欲しいという希望も高まっています。

### 地域の小・中学校でシニアが活躍

横浜市には「学校支援ネットワーク」という制度があり、先生の補助として講座を修了した担当コーディネーターが、新入生の支援や校外学習や運動会などの学校行事に協力しています。

その他にも科学好き人たちの「青葉科学探偵団」というグループは工作や科学実験などを通して科学の楽しさを伝えています。

各地域にこのように子どもたちに向けた様々な活動をシニアがやっていますが、日本の文化や郷土史などその土地ならではの活動があり、このほかにも広がる可能性があります。

### 子ども食堂の広がり

ここ2～3年「子ども食堂」が広がっています。当初は貧困家庭や問題のある子どもを対象に、食事付の居場所を提供することが目的で、世話好きの女性が自宅を解放して始まったと報道されていました。年齢も幅が広く小学生から高校生までの家族関係が機能していない子どもたちの相談場所でもありました。



しかし、貧困家庭の子どもでなくても仕事で帰りの遅い母親が増えて夕食をきちんと食べていない子どもも多くなりました。今回取材した「かもマチ食堂」は誰もが利用できるみんなの居場所でした。(詳細は6ページ参照)

### 子どもたちにシニアができることは？

未来を担う子どもたちにシニアができることはまだまだたくさんありそうです。地域の情報を集めてどこかで子ども支援ができる場所を、積極的に見つけましょう。子どもたちから元気をもらい生きるパワーにつながります。(Y)